

慈雲

8号

2008/12

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zui renji@nifty.com

SinsyuuOotaniha

JiunzanZui renji

Jiunkai

菩薩

三万二千

文殊師利

法王子

而為上首

【表紙の言葉】

「菩薩三万二千文殊
師利法王子而為上首」
しりほうおうじにいじょうしゆ

お釈迦さまが『観経』
の説法をなさる時、菩薩
方が三万二千人ほどそ
れを聞いていました。そ
の中で文殊菩薩を一番
上席としました。

三万二千人の菩薩と
は決して特別に修行を
積んだ人のことではな
く、私たちと同じく日々
の生活の中で迷いなが
らもたくましく生きて
いこうとする凡夫のこ
とです。

その三万二千人の中
にはもしかしたら私た
ちの先祖も菩薩（求道
者）のひとりとして聞法
していたかもしれませ
ん。

雑華雲（ざっけうん）

落ち葉の季節になるといつも思い出す人がいます。それはお釈迦さまのお弟子の周梨槃特（シュリハンドク）のことです。

かれは兄の摩迦槃特（マカハンドク）と共にお釈迦さまの弟子になりました。聡明な兄と違いシュリハンドクは愚鈍で殊に物覚えがよくありませんでした。そこでお釈迦さまは彼に短い偈文と一本のほうきを与え、ただひたすら掃き続けることを教えました。シュリハンドクは来る日も来る日も門を掃き続けました。しかし掃いた尻からまたすぐに塵がでてきます。

ある時シュリハンドクはふと気がつきました。「この掃いても掃いても終わりのない塵は自分の煩惱であり、それは自分の中から完全に消し去ることはできない。そのような存在である自分自身をしつかりと見つめなさいというお教えだったのか。」

一心になつて掃くことで、外ばかりを

向いていた眼がいつしか自分の内面を向きはじめていたのです。やがてシュリハンドクはお釈迦さまと同じ阿羅漢のさとりをひらきました。

私たちはシュリハンドクを愚かだと笑えるでしょうか。生きる上で本当に知らなければならぬことを知る、その大切さを私たちに教えてくれています。蓮如上人は「一文不知の尼入道なり」というとも、後世をしるを智者とすといえり」（御文五 二）とおっしゃられました。

~~~~~

### 【お知らせ】

#### お磨きのご案内

十二月十九日 午前九時より

今年最後のおみがきをいたします。

「おすす払いといって一年間の塵やすなどの汚れを落とす行事です。シュリハンドクと同じく、仏具をみがくと共に心静かに自分と向き合ってみませんか。」

### 【編集後記】

今年も早いもので、残すところあとわずかとなりました。

秋口に少し体調を崩し、なかなか回復しないことに焦りと不安を感じていました。ある晩、遅くまでお笑い番組を見てげらげら笑ってから寢床に入りました。お医者さんに睡眠時間をしっかりと取るように言われていたので少々後ろめたい気もしたのですが、それでもその日はいつになくリラックスしてすぐに寝付くことが出来ました。笑うことで身体の緊張がほぐれたのでしょうか。

わたしは何をそんなに力んで身を固くして生きているのだろうかと今回のことで知らされました。

またこんな私に多くの方からアドバイスや励ましの言葉かけていただいたことは勿体なく有難いことでもあります。今年もいろいろとお世話になり、有難うございました。

坊守